
やることないので、ネギまの世界で×××holicまがいの事をやってます

加納 縦

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

やることないので、ネギまの世界で×××holicまがいの事をやつてます

【Zコード】

Z8972Y

【作者名】

加納 縱

【あらすじ】

初作品です
不老チートと物作りチートで
する事のない主人公が×××holicまがいの
事をしてダラダラと生きていく話です

文才がないですが、其れでもよろしければ
どうぞ

プロローグ（前書き）

初作品です

プロローグ

【ゴッメーン暇だから、殺して
転生させるから、神権限で。
つていつもわかんないか、
今死ぬ1秒手前だから】

ほら、死んだ

s i d e 青年

ああ、今日も一日疲れた
早く帰つて寝よつ、其れが一番だ！

つと思つて居たの、元気
気づいたら森の中だつた

「わけ分からんこどこだ？」

うん？紙に何か書いてあるな、どれどれ…

【ここは、ネギまの世界です
テンプレの所謂トリップです

お約束の特典は

不老と物作りのチート以上2つです
では、頑張つて生きて下さい

時代は原作の1000年前です】

マジック……

⋮

プロローグ（後書き）

頑張ります

プロローグ2（前書き）

馴文です

プロローグ2

s a d e 追われている少女

「はあ…はあ…誰か」

どこか隠れる場所を探さないとつ！

ダン！

「ああ…」

ついにみつかってしまった…また、殺される

「見つけたぞ吸血鬼め！ 死ね！ 魔法の射手 光のつガ！」

「おいおい…幼女相手に何やつとるんだお前は」
そう言って着物を来た青年はその男を投げ飛ばした

「助けてくれるの？」

「ここ人は、私が吸血鬼だと言う事を知らないんじゃないだろうか…

「いや…普通人が襲われてたら、助けるだろ…」

「そいつは人間じゃない！ 「やめて…」

「言わないで…！」 吸血鬼だ！」

「ああ…せっかく助けてくれたのに…また、逃げないと…
この人にも殺される…」

「だから何？」

「「は？」」

「吸血鬼だぞ！人間じゃない化け物だ！」

「いや……そんな事言われても、

俺自身軽く400年位生きてるしなあ……」

ええ！――この人も吸血鬼？なのかな……

「なつてめえも化け物か！！来れ雷精ホーリー・アント・スピリットウス・風の精エアリース・スピリットウス（アエリアーレス・

フルグリエ……「遅い！白き雷！……」

なつ無詠s...」

魔法使いは言い終わる前に跡形もなく青年の魔法でけしどんだ……

s a d e 着物を来た青年

どうも400年ぶりです

え？とびすぎ？気にするな俺は気にしない

それにしても吸血鬼になんざ初めて見たな

やつぱり心臓に杭を刺さないと

死ななかつたり、蝙蝠なつたり、

処女に血を吸つたりすんのかね？

「そここんどこどうなの？」

「え？なつ何ですか？」

「いや、じつちの話だ氣にするな

「はあ……」

「んじや、帰るわ、
ま、魔法使いとか、魔女狩りとかに
気よつけろよ~」

「あの、待つて下さい!!

「ん? 何?」

「あなたは私と同じ吸血鬼ですか?」
ああ…その事か…

「いや、ただの不老なだけの人間だよ」
まあ、一応人間だ、龍とか殺せるけど。

「私を連れて行つて下さい!
いつも命を狙われてるんです…」

「ふむ…（まあ、魔法を一通り
教えるかわりに仕事の手伝いをさせるか…）
一応一流と呼ばれるぐらいには
鍛えてあげよう

何、お互い不老だ時間はたっぷりある
その対価として俺の店で働いてもらつ
事になるが、いいか?」

「はーーーもうしくお願ひします!!

私の名前は
エヴァンジエリン・A・K・マクダウェル
と言います」

「ああ、よろしく

俺の名前は ナナシ だ

ちなみに名前の由来は名無しからだ

「それじゃあ、行こうか」

「はーー。」

プロローグ2（後書き）

余談

エヴァ「ところでこんなところで
なにしてたんですか？」

ナナシ「ああ、仕事帰りだつたんだが、
迷つてしまつてな 1年間ぐらゐ
この辺をうろちょろしてた」

エヴァ「帰れるんですか？
それつて、激しく不安なんですか？」

ナナシ「…………行こつか」

エヴァ（本当に大丈夫かな？）

さりに1ヶ月迷つたのち帰れました

たららら～

エヴァは

サバイバル技術を手に入れた！
簡単な料理ができるようになつた！
太陽で時間がわかるようになつた！
方位磁石なしで

東西南北がわかるようになつた！

仕事と恋愛の趣味との対価（前書き）

「都合主義発動！――ぶっちゃけ安心院さん

仕事と魔力の古事記との対話

「さて、まずは俺の仕事がなんであるかを知つてもらおう

まあ、仕事と言つより趣味に近いんだがな

そう言つとナナシは

金属製の名刺を取り出した

「これに魔力を流すと転送陣が作動してここに繋がる仕組みだ」

「へえ～便利ですね、って言つか、

それじゃあ、

何での時あんなとこに居たんですか？」

「ああ、それは魔法関連じゃない
一般人も中にはいるからな

お前とあつた時は、

そつちの客だつたんだよ」

「あ、そりなんですか」

「で、肝心の仕事内容だが、それは

『対価を払えばどんな願いも叶える店』だ。」

「何でも、ですか？」

「ああ、何でも、だ。

お前とあつた時の依頼は

『王の病気を治す事』だったな。

対価は

王家に代々伝わる秘宝、

呪われた剣、

国家予算の10分の1以上にの三つだ

それを見ると

「いくらなんでも

もらいますぎじやないですか？」

とエヴァは顔を引きつらせていた

それを見てナナシは

「仕方ないだろ？、不治の病だったし

王が死ねば王家の血筋が途絶えたんだから

と苦笑をしていた

「ちなみに魔法は使ってないぞ
純粹な医療で治したからな。

魔法は使ってないぞ

この時代だ、魔法を安易に使えば
捉えられて、火炙りの刑だな」

そう伝えると

エヴァは顔を自分の立場を思い出したのか
顔を青くしていた

「と、といひで対価つてやつぱり
お金ですか？」

「いや、金は寧ろほとんどない
俺がもううのは、その時々で違うが

よくもううのは『人の才能』だな

そう言うとエヴァは

「人の才能何て

どうやつもらうんですか？」

と、首を傾げていた

「俺のオリジナルの魔術でな、
才能をストック出来るんだ。

『人にものを教える才能』は10年前に
対価で貰つたからな、

大体普通の半分の時間で

お前を一流に出来るよ

ちなみに、お前の対価は修行が終わるまで
俺の仕事を手伝う事だ、

掃除、洗濯、料理こみで」

そう伝えるとエヴァは慌てて

「私は家事なんて出来な『覚えろ』……はい」

「よし、それじゃあ、明日から

修行（と言つ名のいじめ）の開始だ！

エヴァンジル「エヴァ（何かしら
凄い寒気が）」…エヴァ

仕事と個人の趣味との対価（後書き）

余談

エヴァ「そんな便利なカードがあるんなら
それ使って帰ればよかつたじゃないですか」

ナナシ「…そういう…」

エヴァ「（もしかしてバカなのかな…）
しつかりして下さい…」

たららら～

ナナシにバカ疑惑がかかった

エヴァは

不安をつのらせた

苛立ちを覚えた

ツッコミ（初級）を覚えた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8972y/>

やることないので、ネギまの世界で×××holicまがいの事をやってます
2011年11月29日22時54分発行